



2022.7 / VOL.30

ボードレス・アートミュージアム  
NO-MA ニュースレター

展覧会レポート

反復と平和 ――日々、わたしを繰り返す

広瀬浩二郎さん、小原二三夫さんが来館

Topic of NO-MA

NO-MAの「無視覚鑑賞」

BAColumn

ボードレス・アートを巡るコラム VOL.01

あのひとの近江八幡スタイル

地域インタビュー

HOMEPICNIC STOREHOUSE 店主

近江家具商人 代表 藤田 昌喜氏



子どものころ、毎晩同じタオルを抱いて寝ていたことがあります。今夜もこのタオルと——その反復は、闇夜を越える幼心にとつての大切な拠りどころであったと、いまでは、そう思います。

本展では、繰り返しに安寧を求める気持ちを「反復と平和」と表し、7人のアーティストの作品を展示しました。本当は全員紹介したいところですが、別の原稿(例えば左記のコラムなど)で紹介した作者は、泣く泣く省き、ここでは4人のアーティストを取り上げます。

受付を済ませた来館者がまず初めに会うのは、吉川秀昭さんの作品です。とがったフォルムの陶芸作品には、無数の点が打たれています。吉川さんは「目、目、鼻、口」と唱えながら、点を打っていくそうです。つまり、穿たれたおびただしい量の点は、無数の顔を指し示しているということ。造形物としてもとてもおもしろいですが、「顔とはなにか」という観念的な問いかけが含まれていることも魅力です。

その先にある、佐々木早苗さんの大きな絵が目を引きまします。図版は丸の集合体ですが、丸だけではなく、四角や文字など様々なパターンを、繰り返し描いてきました。絶妙な空間構成やカラーリングの一方で、ときに寝る間を惜し

## 反復と平和

——日々、わたしを繰り返す

2022年4月29日(金)~7月31日(日)

小林椋、佐々木早苗、篠原尚央、清水ちはる、鈴木かよ子、横山奈美、吉川秀昭

主催:ポータル・アートミュージアムNO-MA 社会福祉法人グロー~生きることが光になる~

後援:滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会

協力:浅間学園、近江八幡観光物産協会、マエダクリーニング 仲屋店、しみんふくし滋賀、社会就労センター あおぞら、一般社団法人HAPS、やまなみ工房、るんぴい美術館



佐々木早苗 無題 2021 (撮影:浅野豪)

むほど描き続けてきたという制作への情熱も、しっかりと絵に滲んでいます。

2階では、小林椋さんと篠原尚央さんの作品を展示しています。置や板の間に置かれているのは、小林さんの装置のような作品です。規則的に反復運動するそれらは、何らかの目的で動く機械のようですが、どれだけ注意深く見ても、何のために動いているかはわかりません。機械的な装いにに対し、非機械的にふるまう装置群を前に、わたし自身、じっと見ていると、混乱と脱力をいっぺんに味わうような感じがします。

壁側には、篠原さんの絵がかかっています。彼の作品シリーズの「カキカコ」は、かきかっこの形をベースに描かれた連作の絵画です。一見、かきかっこのように見えない線の組み合わせに見えるのですが、よく見ると、確かにかきかっこのしき形状を見出すこと

ができます。描かれるたび、形状と色彩が変化していくのも興味深いポイントです。

2人の作品は、ビジュアル的に親和性があるように思えます。さらに、2人のセンスも近いように、わたしには感じられます。有意味のような無意味のような、かきかっこのあつてかきかっこのない——こういってよければ、2人の共通感覚を「裏切りの妙」といいたいです。

小林さん、篠原さん、両者が呼応する展示空間ですが、「コラボレーション」とまではいえないかもしれません。むしろ、2人の距離感には「たまたま同じ場所に居合わせたし、まあ、しばらくここにいても悪くない」くらいに言い表すのがよさそうです。この微妙な距離感、本展担当者としてのお気に入りポイントの一つです。

本展に登場する、どの繰り返しもユニークです。個性豊かな反復的表現を楽しみつつ、「反復と平和」という言葉がこの時代にいかなる響きを持つか、思いめぐらしたいただ展示になったと思います。



2階展示風景 小林椋 篠原尚央 (撮影:浅野豪)

こちらから「反復と平和」展のギャラリートークをご覧ください。



## ノマ Topic of NO-MA トピ

NO-MAでは、これまで視覚以外で鑑賞する展示を何度か行ってきました。さわる陶器や木彫の作品、立体コピー技術を用いた絵の触図。また、盲ろうの人(視覚と聴覚の両方に障害がある人)と意見交換しながら美術鑑賞を楽しむ方法を検討し続けてきました。その中では、展示物をさわって感想を交わすイベントなども実施してきました。

今後は、一部の展示を視覚以外でも鑑賞できるように取り組むだけでなく、開催するすべての展覧会を見えない、見えにくい人に楽しんでいただけるようにしていきたいと考えています。その初めての試みとして

企画展「反復と平和——日々、わたしを繰り返す」全出展者の作品に対し、視覚以外で作品を鑑賞する方法を「無視覚鑑賞」として用意しました。制作にあたっては、アーティストや触図制作者と調整を重ねて、各作品の性質に合わせて鑑賞方法を考えました。

会期中には全盲である、国立民族学博物館の広瀬浩二郎さんと作家の小原二三夫さん、それぞれに展覧会にお越しいただきました。広瀬さんは、ここ数年、NO-MAの視覚以外で楽しむ展示企画などにご協力いただいております。小原さんは、過去の展覧会の出展者でもあります。お二方から「すべての作者の作品を見る以外の方法で鑑賞できてよかった」との感想をいただきました。

壁一面に300点ほど展示された鈴木かよ子さんの作品は、その中から4枚を触図化し、同じ量の紙を箱に入れて、さわって作品の量を感じていただけるようにしました。「作品点数のボ



吉川秀昭さんの作品に触れ、鑑賞する小原二三夫さん(右)

リュームを感じる事ができた」と広瀬さん。触図で絵を比較できたこともよかったということでした。

清水ちはるさんの映像作品は、音声がないうシーンにスタッフが説明しながらご覧いただきました。ちはるさんが制作する「箱」の実物もさわって鑑賞いただけます。小原さんは、「最も印象的だった。ちはるさんご家族の生き方に感銘を受けた」と振り返っておられました。

前向きな感想をお聞きする一方で課題も見えてきました。広瀬さんからは、「いい挑戦だ

が、似たような触図が続くものについては、触知する労力に対して微細な変化がわかりにくく感じた」という意見をいただき、鑑賞方法の制作には改善の余地があるといえます。

今回の取り組みを通して気づいたことは、無視覚鑑賞は定型化できるものではなく、それぞれの作品に合った鑑賞方法を作者と相談しながら形にしていけることが重要であるということです。これからも、すべての展覧会を視覚以外でも鑑賞できることが当たり前になることを目指して、取り組んでいきます。



鈴木かよ子さんの絵の触図

文:石田瞳 自立生活支援員

## 横山奈美さんと一緒に、 鈴木かよ子さんに会いに行った話

文：山田創  
(ボードレス・アートミュージアムNO-MA学芸員)

に捉われずに、互いの魅力を相互的に照射し合うようなアーティストの組み合わせこそは、「ボードレス・アート」という当館コンセプトの真髄といえるかもしれません。

他方、こうしたコラボレーション的な展示において、そのプロセスの大半は、学芸員と美術家を中心に進められます。障害のある人には、福祉施設の支援者を通じて作品選定や展示プランを相談することが多いのですが、「お任せします」となることが大半です(もちろんそうでない支援者の方々もいます)。

意思疎通が難しい障害のある人との展示会づくりの現場では、多くの場合、どうしても健常者のみ为中心的なプレイヤーになっていきます。障害者と健常者のアーティストが並ぶ場を作ること、豊かな社会の実現に向けたとてもいいことだから仕方がない——そんな風に自分を納得させながら、わたしは「私たちのことを、私たち抜きに決めないで」という、本当は聞こえているはずの声に気づかぬふりをして、あくまで展示会という枠組みの中でのみ、障害者と健常者の出会いを演出してきたように思います。

「鈴木さんにお会いしたいです」  
電話のやり取りで横山さんがやや前のめりに発した、その言葉に打たれました。鈴木さんと展示プランを一緒に考えたりすることはできないかもしれない、しかし、この巡り合いを現実に生きる鈴木さんに還元することは実現されるべきだ——電話の向こうの切実な声色に、駆り立てられるものがありました。

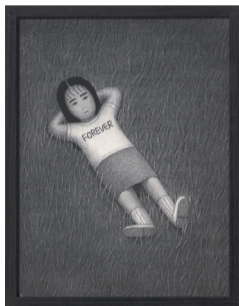
NO-MA企画展では、障害のある人による作品と美術家による作品を対にして展示する構成がしばしばなされてきました。障害の有無

浅間学園の皆さんの手厚い協力の末、横山さんと鈴木さんとの出会いが実現しました。お会いできたわずかな時間の中で、横山さんは、聞こえにくい鈴木さんの耳元で「わたしたちの絵、似ていますね」と何度も語り掛けられました。その言葉や、わたしたちの訪問を、どこまでの解像度で、鈴木さんが理解されたのかはわかりません。わたしには、鈴木さんが和んだ表情をされていたように見えたのですが、言葉はなく、その胸中はわかりません。

ただ、鈴木さんが一度、画集に載った横山さんの絵を指さしました。「横山さんの絵を認識された」、今回の出会いの中で、これは確実にいえることです。利他的で、なんとも弱い巡り合いです。しかしそれは、出会うべき2人のアーティストが交差した、代えがたい一瞬でありました。



鈴木かよ子  
《私》1965頃～



横山奈美  
《forever》2022  
撮影：若林勇人



「反復と平和」展で隣り合う2人の作品  
撮影：浅野豪

### 地域インタビュー ohmi-hachiman local interview

作り手やぬくもりが感じられる、  
こだわりのものづくり

HOMEPICNIC STOREHOUSE 店主  
近江家具商人 代表 藤田昌喜氏

文：橋本悦子(自立生活支援員)

NO-MAのある永原町の一角に、古い倉庫を改装した「HOMEPICNIC STOREHOUSE」というお店がある。藤田昌喜さんが経営する家具や生活道具を扱うお店だ。

藤田さんは、2008年より“近江家具商人”として家具制作を主とした活動を開始。2020年、“ていねいに作り上げられた道具のある暮らし”を提案する、現在のお店をオープンした。

店内には、藤田さんが手がけた家具とともに、作り手のこだわりが感じられる陶器や金具、古道具など、日々の生活を豊かにしてくれる道具が多数取り揃えられている。お客様は、ものづくりをされている人や「インスタを見て」という20代、30代の方が多いそうで、独自の価値を求める人のアンテナに引っかかっているようだ。

お店の出店場所を探していたとき、知



住宅や店舗の家具設計・制作など、幅広く活動している藤田さん

り合いの多い京都か近江八幡の旧市街かで迷ったそうだが、学生時代に建築を学ばれていたこともあり、重要伝統的建造物やヴォーリズ建築など、複合的な文化が入り混じって独自の雰囲気を出すこの町にひかれ、現在の場所を選ばれたという。

お仕事をする上での楽しみやこだわりを伺うと、「いっぱいやりたいことがあるんですよ。家具だけに留まらず、ものづくり全般をやっていききたい。制作だけではなく、商品開発みたいなこともやっていきたいです」と藤田さん。あれやこれやと、やりたいことが頭に浮かんでいる様子だ。

「展示什器を作るときは、動線を考えるところから参加することもあります。住宅家具のオーダーを受けた際は、使われる方のことを一番に考えます。あえてシンプルな提案をすることで、求められ

るものに答えることもあります」

そんな藤田さんに、今春、NO-MAの商品展示棚を制作いただいた。NO-MAからは「SDGsの観点に適した展示棚」を依頼。話し合いを重ね、工房から大量に出るいろいろな樹種やサイズの端材を活かした、木のぬくもりが感じられる棚ができた。NO-MAに入ってからすぐのところに、いい意味でかしまりすぎない、どこか人間味のある棚たちが来館者をお出迎えしている。

藤田さんの提案には、機能性やデザインを重視しつつも、バランスを見ながら、心地よい余白やゆとりがあるように感じられる。人によりそのものづくり。あれやこれやと頭に浮かべていたものが、今後、どのようなカタチになっていくか楽しみだ。

週末のみOPEN 家具と生活道具のお店  
HOMEPICNIC STOREHOUSE

Instagram  
[https://www.instagram.com/hpsh\\_ohmi/](https://www.instagram.com/hpsh_ohmi/)



## 近江八幡 あのひとの スタイル



上 / 店舗2階には家具とともに、こだわりの生活道具がならぶ  
下 / 藤田さんに制作いただいたNO-MAの展示棚を含むスペース

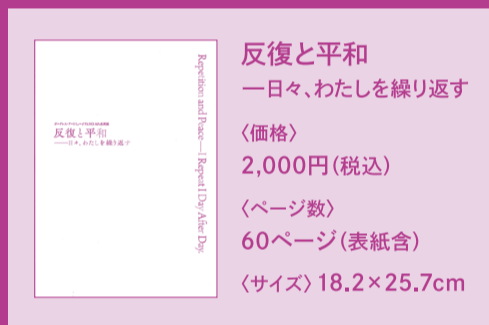
## &lt;NO-MAグッズのご案内&gt;

作品のメモ帳やトートバッグなど、NO-MAのミュージアムショップやホームページからお買い求めいただけます。

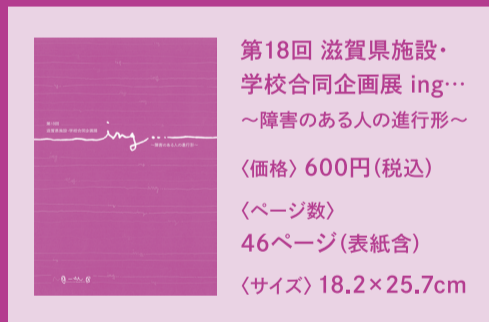


## &lt;NO-MA企画展グッズのご案内&gt;

2022年7月31日(日)まで開催している企画展「反復と平和—わたしを繰り返す」の図録を、NO-MAおよび、NO-MAホームページにて販売しています。また、過去に開催された展覧会の図録や関連書籍、ポストカードなども取り扱っています。ぜひ、お求めください。



**反復と平和**  
—わたしを繰り返す  
〈価格〉  
2,000円(税込)  
〈ページ数〉  
60ページ(表紙含)  
〈サイズ〉18.2×25.7cm



**第18回 滋賀県施設・学校合同企画展 ing...**  
～障害のある人の進行形～  
〈価格〉600円(税込)  
〈ページ数〉  
46ページ(表紙含)  
〈サイズ〉18.2×25.7cm

## NO-MA次回企画展 「絵になる風景」

風景を描くということを誰もが一度はしたことがあるはず。あるいは、美術の歴史の中でもずっと昔から続く営みでもあります。人間にとって、大切な画題である風景。本展では、「絵になる風景」をテーマに7組のアーティストの作品を展示します。

2022年8月11日(祝)～11月6日

11:00～17:00

月曜休館(祝日は開館、翌平日休館)

会場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

観覧料：一般300円(250円)、高大生250円(200円)  
中学生以下・障害のある方と付添者1名無料  
※( )内は20名以上の団体料金

出展者：古久保憲満/衣真一郎/ドウ・セーソン/  
畑中亚未/福田絵理/古谷秀男/三橋精樹

主催：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、  
社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～  
後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、  
近江八幡市教育委員会

協力：近江八幡観光物産協会、マエダクリーニング 仲屋店、  
しみんふくし滋賀

## NO-MAの情報発信

NO-MAでは、ホームページでの情報発信に加えて、SNSを活用した情報発信も行っています。



NO-MAホームページ  
<https://www.no-ma.jp/>



公式Facebook  
museumnoma



公式Twitter  
museum\_noma



公式Instagram  
@museum\_noma



NO-MA YouTube  
チャンネル

## 【おすすめコンテンツ①】

「アール・ブリュット—日本人と自然—BEYOND」展のウォークスルー動画を公開中

2022年2月11日から3月21日まで開催した展覧会「アール・ブリュット—日本人と自然—BEYOND」の様子を、YouTubeにてご覧いただけます。お越しいただいた方も、お越しいただけなかった方も、ぜひお楽しみください。



日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバルYouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCVwO67QcG1ZZTgZCHn-bAsA>

第1会場 NO-MA <https://youtu.be/ER4c0hGPMk8>

第2会場 旧増田邸 <https://youtu.be/ZePDDNvp0GE>

第3会場 まちや倶楽部 [https://youtu.be/vUAAIEs\\_jZE](https://youtu.be/vUAAIEs_jZE)

※本展は日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル  
in 近畿ブロック&グランドフィナーレのプロジェクトとして開催しました。



## 【おすすめコンテンツ②】

ますます充実！ NO-MAアーカイブをご活用ください！

<https://no-maarchive.com/>



「NO-MAアーカイブ」は、NO-MAの取り組みのなかで蓄積してきた言葉や文章、写真や映像などを保存し、公開していくウェブサイトです。これまでに開催した展覧会情報や、講演の様子、過去の「野間の間」など、NO-MAの歴史を数多く掲載しています。現在、情報を整理して、順次アップしているところです。ぜひご活用ください。

## 編集担当・赤澤誉四郎 【編集後記】

最近、出合いが出会いを呼び、つながりがどんどん広がっていく感覚があります。コロナ禍でつながりが失われてしまったといわれますが、「本当にそうかな？」と思うのです。みんな、ちゃんとつながっている。そのきっかけにNO-MAがあると、うれしくなります。前回の展覧会では会場ボランティアさんへ運営のご協力をいただきました。ある日の日誌に追記されたエピソードをご紹介します。

ある日の旧増田邸に  
グローの赤澤さんと一緒に  
鑑賞したイントロの  
来訪した広島出身の曾呂さん  
あややかな服装をまとわれ  
と目立っていました。  
作品にも興味を持ち下り  
私の色紙質問にも快く答え  
下り、アートは？ 仏教とは  
人種とはと語り盛りあがり  
ボランティアをいってうは色紙は  
お客様との会話はとても楽しく  
そして勉強にもなるの、視野が  
広がります。  
この日は雨が少し降りました。曾呂さんは  
素足にさうり染、身体をひきかきませんように  
と思った日でした。

大橋 追記

ボーダレス・アートミュージアム NO-MA



滋賀県近江八幡市永原町上16  
TEL/FAX 0748-36-5018

休館日：月曜日  
(月曜日が祝日の場合は翌平日休館)

E-mail [no-ma@lake.ocn.ne.jp](mailto:no-ma@lake.ocn.ne.jp)

<https://www.no-ma.jp>



## Access アクセス

バス JR近江八幡駅から近江鉄道バス(長命寺行き)大杉町八幡山ロープウェイバス下車徒歩8分。  
車 名神高速道路・竜王ICより「近江八幡・国道8号」方面へ。  
国道8号「西横関」右折、「東川町」左折。県道2号「小船木町」右折、「出町」左折。(計30分)  
自転車 JR近江八幡駅から徒歩30分、自転車10分。

